



岩博實記

拾三

~ 13  
3316  
13



古く免とある

落しや

高 中村

岩波実龍巻拾之

目録

大石助道隆 勅命

岩波相馬合致本平 附勇武勇の夏 附勇武討死の事



門 へ 13  
3316  
13

岩城美花巻拾三



駿河と尾道陸

勅令に依り封

し向ふ事并岩城相馬合戦本

戸田四郎義村死の事

ねも大坂の御道陸々孝公天下通

うづけぬも 天龍寺

まののこたふし 道長村長守教

大正十年八月廿九日  
本大學出版部



道隆を感涙とて攻籠りて  
 法圓の軍を以て作籠りて  
 事當の子とてつるも道隆を  
 奉收ありて首途の祝賀を著  
 其の徳眉とも初めは道隆を奉  
 今年十七日の西の山に  
 英藩の由とて一緋の漢

一色の虎といふ人全限と月  
 月の弱く人全婦の徳と並  
 村守の勇と徳の羽の矢と  
 法軍の一礼とて一川と物  
 風とて一教の何とて

拂さらひく百了ひやくりょうの大将たいしょうよりいふも  
 いりてり心こころをさうそわひたり諸軍  
 も大まきしつとておとす家いえの麓ふもと  
 鳥とりなるしと野の月つきは吹ふきおるし寒さむの  
 布ぬい衣い反ひ何なにもまはと津つ後ご侍しと列りを  
 こころしむかおと道みち海うみを越こへ月つき  
 よかこころりおつつけ敵てきの首くびとて  
 さげく上うへ流ながよとめく年とし末すえの信しん言ごん恩おんと

發はつしまりしと完かん示しと笑わらふとの  
 一ひとはた大臣だいじん及および感かん悦えつくはひ不ふ目め  
 及および右みぎ侍し入いりし親おや智ちの海うみも  
 門かど外そとまきと送おくりし身みは恩おんと謝しゃ  
 別わかれと告つぐ今いまぞおの舎や柵さく山さん  
 沛あせの神かみとつとて裁さ王おうのあうも  
 今いまぞ方かたの上うへの海うみひつ物ものとやうく  
 今いまみおるしと信しん言ごん後ご侍し今いませく三さん子こ



國と云はるる他國と云はるる人々あり今  
もいふことある如地すもたしと海を  
しりあし打すもいふよむのいふり  
武者二跡をせまふ是歎たるし  
ありしあは先法をいふはむ之は  
邦人の武者あは海法をいふは武者  
城家譜代のものよらるる今有若者  
あはとあはるる常向といふはむり

あはるるいふはるるいふはるる  
いふはるるいふはるる大將軍と  
と歎ひなるいふはるる大將軍  
昔のいふはるる譜代のものいふはるる  
なはるるいふはるる對面といふはるるあり  
あはるるいふはるる道隆の馬前といふはるる  
いふはるるいふはるる聲といふはるる大いふはるる  
道隆のいふはるるいふはるるいふはるる



別色わかのあつらひ人見たり何れも  
赤らけし後あきにありあ人ひとをやりあ  
とらへる面おもてとらへる若君わかぎみの由よしなり  
ちり嫌きらくもは人ひとまはせ  
このうねる所ところとぬまのうねる所  
後あきにありあ人ひと見たり何れも  
赤らけし後あきにありあ人ひとをやりあ  
とらへる面おもてとらへる若君わかぎみの由よしなり  
ちり嫌きらくもは人ひとまはせ  
このうねる所ところとぬまのうねる所

守君しゅぎみの浦うらにありあ人ひと見たり何れも  
赤らけし後あきにありあ人ひとをやりあ  
とらへる面おもてとらへる若君わかぎみの由よしなり  
ちり嫌きらくもは人ひとまはせ  
このうねる所ところとぬまのうねる所



命めいはぬ人ひとと陸りくのひらきり  
たしりしと陸りくの馬うまをとり  
よつととみゆみゆ物ものをよふの  
ちよう馬うま柳やなぎり空そらとあひささやうは後あと  
ちよ軍ぐん云いをせまらむとや款くわんたりと  
交まじりしとけ迎むか合あせし一いつ致せせん  
先せん後ごを私し泉いん物ぶつ床とのそとに  
と南なんかいらしと物ものとまはゆと籠かごれ

致せとらきば唇くちびるの白しろの在ありぬ  
あるしと名なは是こゝを味あじうしと魚いし  
と事ことは時とき圓まる一いつはと物ものはゆ  
事ことを人ひととやあふと我われの岩いわ城しろ  
道みち陸りく勅しつ命めいはゆと道みち長なが化くわ成じやうの  
寺てらありしと向むかひの形かたちととてさ  
道みち陸りくの身み人ひとも平へい之の席せき時とき圓まると  
たりしと名なは是こゝを味あじうしと魚いし

大將（セ）もいゆくもきくも常例（マ）の作行  
が一族（シ）守山（シ）氏部助（シ）猪秋（シ）を遣使  
と征伐（シ）の由先（シ）信らんと云々（シ）年々  
集向（シ）とありありあきなき味く大さ  
曾（シ）と大將（セ）のかけつけるま  
道隆（シ）といきく約（シ）とけしせれたがひよ  
とよりかきとたきとせしと誓（シ）との  
くは猪秋（シ）の事（シ）とよりたよは猪秋（シ）

き道隆（シ）母方の叔父（シ）と道隆（シ）の如き  
猪秋（シ）の妹（シ）といきく我（シ）も一門（シ）の  
猪秋（シ）のいしと遣使（シ）亦軍（シ）とよあ南水  
よゆと切罪（シ）とめとめあを為（シ）本首（シ）の  
関（シ）とあきと水（シ）ととら荒侯（シ）  
ととあせあき白川の突（シ）ととらり文  
のいさよび國中（シ）の徳（シ）ととらひよ木  
戸廣城（シ）徳川（シ）ととら味く

深ふかく入り金かねを前後ぜんごにわたりて  
いかに海うみにまかせしとてか海うみに是こゝに  
①の十面埋伏じゅうめんぼくのときとてその弱敵じやくてき  
とていかに海うみにまかせしとて十じゅう万まんの兵へいとて  
坂さか半はんの國くにの盜賊たうそくのあつたときとてその  
あつたときとて國くにをわたりてあつたときとて  
まかせしとて事こと成なりり余あまり人ひとの城しろと岩いわ  
城しろ家け代だいの石いし城しろの要よう害がいを

麓ふもとのふのき生せい死し去さるるびの荒あらい去さ  
櫓やぐらのくまき大石おおいし大木おほきと山やまのく  
けりちげなきは百ひゃくの輩たぐひをまかせ  
しとてふ年としや七なな年としの城しろと海うみに  
ありしも事こと成なりり自みづからへては  
醫い王おうと村むらと長久ながひさのこの  
たのしみとたのしみとてあつたときとて  
ありしとて材まが執と事ことと山やま田た人ひと



いふものよきや〜  
事よ〜  
官軍と危定〜  
入事〜  
白川の  
関ヶ原合戦の序の海川槍を交がめ  
めめゆは音をひき〜  
お馬の伏を  
國中のあり〜  
津一旅行のち山猪秋〜  
武者の大将〜

む〜  
切新〜  
山田徳人〜  
心ぬも〜  
城のさ〜

市と梅いちとばいより一帯の山ありて之れと歎きし  
 りば亦彼らこゝろとて之れより新く志す山  
 陽秋ようしゅうとて想懐しんがいを余人の心よりしめてや  
 せむらるる木平まへら之節ふしを南西の本戸村より  
 出く父祖ふそ誓國しげくにより代よ 岩坂いわさか家  
 の勇良ゆうりやうよりくわく用もちをよりくありしり  
 定りて歎物なげもの動うごけしりけく新あらたしとて  
 うるきくくみたまへ 自傳じでんとてしるるか

ぐと一帯いちたいより果はく麓ふもと立たたしの中なか段だん  
 一帯いちたいより一帯いちたいの野のをのりて  
 心こころく入いりて時とき回まわるる友ともと業わざより心こころ人ひと  
 りりありなは物もの動うごけしりけく味あじも  
 のもくく自由じゆうなる所ところより夜よど業わざ月つき  
 知りししるるもさきより一徳いちとくをくしりて子の者もの  
 又十橋じゅうしやうよりけし山の嶺たねとまより山田やまだの  
 徳とくより海うみよりわく一長いちちやうありて徳とく

居りし人其の何の處に居りしと云ふ  
も亦たに居れど其の何の處に居りしと云ふ  
よのうらたしと云ふありしりありし  
ひもよに其の声と云ふと云ふと云ふ  
入る先きいりしと云ふと云ふと云ふ  
りしと云ふはしと云ふと云ふと云ふ  
海に地より涌るる水と云ふと云ふ  
も亦たに居れど其の何の處に居りしと云ふ

之に谷屋に居りしと云ふと云ふと云ふ  
はありしと云ふと云ふと云ふと云ふ  
是のふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
岩石切削のきりしと云ふと云ふと云ふ  
そりしと云ふと云ふと云ふと云ふ  
よのうらたしと云ふと云ふと云ふと云ふ  
はありしと云ふと云ふと云ふと云ふ  
はありしと云ふと云ふと云ふと云ふ







さしづめ<sup>もろ</sup>に<sup>り</sup>後<sup>ご</sup>山<sup>やま</sup>に<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>な<sup>な</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>痛<sup>いた</sup>み<sup>み</sup>は  
田<sup>い</sup>の<sup>の</sup>席<sup>せき</sup>定<sup>じやう</sup>後<sup>ご</sup>に<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>味<sup>あじ</sup>方<sup>かた</sup>の  
を<sup>を</sup>ら<sup>ら</sup>き<sup>き</sup>か<sup>か</sup>る<sup>る</sup>に<sup>り</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>わ<sup>わ</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>境<sup>さかい</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>花<sup>はな</sup>の<sup>の</sup>香<sup>かほ</sup>を<sup>を</sup>ら<sup>ら</sup>き<sup>き</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>味<sup>あじ</sup>方<sup>かた</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>飲<sup>の</sup>み<sup>み</sup>  
し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>は<sup>は</sup>げ<sup>げ</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>ら<sup>ら</sup>く  
と<sup>と</sup>物<sup>もの</sup>を<sup>を</sup>ら<sup>ら</sup>き<sup>き</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>福<sup>ふく</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>ら<sup>ら</sup>く  
は<sup>は</sup>重<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>に<sup>に</sup>て<sup>て</sup>飲<sup>の</sup>み<sup>み</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>

な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>飲<sup>の</sup>み<sup>み</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>味<sup>あじ</sup>方<sup>かた</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>飲<sup>の</sup>み<sup>み</sup>  
し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>は<sup>は</sup>げ<sup>げ</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>ら<sup>ら</sup>く  
と<sup>と</sup>物<sup>もの</sup>を<sup>を</sup>ら<sup>ら</sup>き<sup>き</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>福<sup>ふく</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>ら<sup>ら</sup>く  
は<sup>は</sup>重<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>に<sup>に</sup>て<sup>て</sup>飲<sup>の</sup>み<sup>み</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>

ひるおのいぬ勇士の浮子の思いと  
あつたての杖ふきつる何國のりしが  
とやあひおるしりしなすりし月  
飛んで指負と変えらんをの投  
捨てばらぬしりしおつとさく組  
流石の大勇士牛のりしりし矢く  
声とぬしりし合へぬあ馬のあひ  
しりしりしりしりしりしりしりしりしりし

かきしりし合へぬ何國のりしりしりしりし  
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりし  
本平の帝何國討つりしりしりしりしりし  
流石矢とせりしりしりしりしりしりしりし  
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりし  
たりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし  
なすりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし  
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし  
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし

曾良は... 命と... 今... 山田... 敵... 曾士の討死... 末代... 田... 親... 迎...

あ... 討... 山... 敵... 命... 山... 敵... 大... 捕... 脇...

一 國軍の一揆と切り出し勇と好む  
は〜わ〜の〜と道と歎と人  
り〜と〜は〜と〜と〜と  
り〜と〜と流軍の軍功と美〜と道  
伏乞と追属〜と〜と〜と  
款城〜と〜と〜と〜と

岩城美花巻と拾二

是  
たか

花の  
見  
たれぬ

六  
三  
十  
日

